

All that we are looking for is somebody who looks like you.

Jan. 2010

# THE INDEPENDENTS

講演 **バイオ産業の展望**

対談 **バイオベンチャーの資本政策**

No.48 **起業家インタビュー**

注目の企業紹介

リソースピープル紹介

『経営計画』について考える

IPOアラカルト

ベンチャーコミュニティを巡って

ベンチャー最前線



株式会社タケクス・ラボ  
清岡 久幸氏



PE&HR株式会社  
山本 英二郎氏



株式会社財務監査パートナーズ  
佐藤 真貴氏



株式会社バイオフロンティアパートナーズ  
大滝 義博氏



株式会社リブテック  
中村 康司氏



株式会社キャンパス  
加賀住 真氏



株式会社チェンジマスターズ  
辻川 礼子氏



出原 敏氏



関西学院大学  
藤原 行氏



大阪インディペンデントクラブ 交流会

自然と身の回りにあった竹を  
食の安全と地域の再活性化に  
役立たせようとする起業家。



TAKE-X

株式会社タケックス・ラボ  
代表取締役

清岡 久幸 氏 (46歳)

## 成分変動を解析し、安定した品質を 確立するのに10年以上かかりました

竹を原料に、抗菌剤・抗ウイルス剤・食品添加物・医薬部外品・除菌洗剤・消臭剤と高付加価値製品を展開するタケックス・ラボ。竹資源の有効活用を通じ地域活性化を図り、さらに環境創造企業として独自の地位を築くことを目標としている清岡社長にお話を伺いました。

### 公衆衛生品の新たな市場を創出

今までターゲットとしてきたのは食品衛生分野、主に集団的に食中毒を発生するリスク対策としてです。この

5月の新型インフルエンザ以降、安全性に関する意識はさらに高まり、公衆衛生品の新たな需要が生まれてきたと感じています。

### 産学連携による研究開発体制

接触によるインフルエンザ感染率を低下させるのに、竹の成分、モウソウチク(孟宗竹)抽出物の抗菌力が非常に注目されました。このエビデンス(検証)は鳥取大学と共同で解明しました。高知大学医学部、広島大学医学部とは花粉症に対する有効性

についての共同研究も行っています。

### 竹にまつわる言い伝え

昔から竹職人は水虫にならないと言われていました。実際に北里大学で竹表皮からの抽出成分で分析すると、白癬菌(水虫菌)に対して非常に効果が高いというのが証明されました。竹は生活の知恵として食品の保存道具としても使われていました。研究を進めていくと食中毒菌・病原菌やカビに有効で保湿効果や抗炎症

効果もあり、食中毒やアトピーにも有効だと検証されたのです。

### 竹のたくましい生命力がもたらす効果

竹は2ヶ月で15~20メートルも成長します。この成長を助ける成分が親竹から地下茎を通して竹の子に集中的に供給されます。竹の皮を削いで残った部分はあつという間にカビが生えます。竹の白い繊維質の部位の濃厚な栄養分が腐敗しないように竹の表皮に守られているのです。

### 効果の持続力が強み

モウソウチク抽出物は抗菌効果が長期間持続します。競合であるエタノール(アルコール)製剤と違い、長期間抗菌・抗ウイルス効果が発揮できるので食関連の事業者から重宝されています。竹は乾燥していくに従い、分子が薄層皮膜を形成し、これが効果の持続性にもつながっています。

### 天然の食品添加物の安全性

竹というのは食品衛生法の中の食品添加物というカテゴリで認可され

ています。経口によるアレルギーも見つかっていません。使用制限が多い化学品と比べ、天然物でも優れた有効性を保持しており、且つ医薬系、医薬部外品の分野でもその安全性が高く評価されています。

### お客様の顔が見える代理店

エンドユーザーは、主に外食・介護・食品工場・学校給食・塾など6,000事業所です。販売は全国に200ほどある代理店を通じて行います。最近、東海地区にある地域密着型の業務用酒販問屋の売上が急拡大しています。現場に決定権がある外食店舗に毎日行くので、良さを認めていただければ即採用されます。18ℓで12,000円と、物流コストも抑えられるので価格競争力もあります。

### コンシューマー向け商品で世界展開

消費者向け市場には、森下仁丹を通してメディケアシステムズ(ロート製薬90%・森下10%)へのOEM販売として展開しています。海外からのオファーも多く、コンシューマー商品に

関するノウハウを蓄積し海外への進出も計画中です。将来は健康食品やヘアケア、スキンケア商品の原料として、世界に向けて販売したいと思っています。

### 父の職人技から生まれた研磨技術

竹の内側の繊維質が抽出物に入ると成分が非常に不安定になります。表皮だけを薄く一定に削り取るには高度な技術が必要です。竹というのは先端にいくほど細くなり節もあります。竹細工職人だった父のおかげで竹の表皮だけ寸止めで剥く機械が考案され特許を取得しました。

### 門外不出の成分解析データ

竹表皮の成分は春夏秋冬、1年2年ものでバラバラです。それを季節毎・生育年数毎に成分変動をデータ化し、成分バランスの条件に見合った抽出条件を設定し、常に安定した品質の製剤として確立するには、それからさらに10数年かかりました。しかしこれで弊社事業の成長戦略を構築できました。



▼竹の建材を利用した本社エントランス(大阪府吹田市)



▼モウソウチク抽出物を主成分としたタケックス商品



▼共同研究によって解明されたモウソウチク抽出物の効果

# 「倒産寸前でも支援し続けてくれた 方々のご恩は一生忘れません」

## 荒廃竹林は地球環境問題

竹林が密集しすぎると根っこが地上に浮き上がり、雨が降ると表層すべりが起きます。今年夏の日本各地での大きな山崩れがそうです。現状では荒廃した竹林は大半が放置されています。自治体レベルだけでなく国交省や農水省、さらに経産省もバイオマス有効利用観点から巻き込み国全体で取り組む問題です。当社では環境NGO団体「オイスカ」とも連携して竹資源有効活用の提言を行っています。



竹材伐採・収穫

## 構造材として竹を再利用

竹の表皮だけ再利用してもあまりにも少量で、荒廃竹林撲滅の根本的解決にはなりません。そこで外側を剥いだ竹材を原料に建築資材として再活用し始めました。竹の特徴は剛と柔です。高強度コンクリート並みの強度ながら竹繊維が粘っこく維持してくれます。つまり耐震性能の高さ、強度保持力が優れているのです。現在はフロア材やデッキ材として、ヒールの跡がつかない高級床材として結婚式場や教会で使われています。

## 竹産業が盛んだった郷土、高知

私は病気のため高校を卒業できませんでした。20歳の頃、中卒の自分にできることは何か真剣に悩みました。その頃、実家である高知県野市町では竹細工産業がどんどん衰退し

ていました。竹という植物を違う視点で見ると、新しい用途を開発して竹産品を下げ支えできないかと考えたのがきっかけでした。

## 証券外務員時代に学んだ知識

25歳の時、父の会社が倒産、直後に離婚し子供もいてこれは仕事せなあかん、と山一証券へ入りました。はじめて日経新聞を読み一生懸命に勉強しながら株式や転換社債を販売しました。会社勤めの経験が無い私でしたが、その時ビジネスに対する興味がわいてきたことが後の起業に活かされました。

## O-157 事件で抗菌効果が証明

父は大阪で竹の建材開発の仕事再開、私は父の仕事を手伝いながらモウソウチク抽出分の抗菌性を研究していました。平成5年、当時の産業基盤整備技研よりの補助金を活用して大阪市立大学と共同研究を始め、O-157の実験結果を発表、食に関係する業界から数多くの引き合いが来ました。

## 大企業の担当者が商品開発を支援

しかし成分はあっても商品化できる段階ではありませんでした。たまたまマクドナルドと山崎製パンの担当者が開発室の方で、日々の商品評価するだけの仕事とは違う、これ

は自分たちのノウハウが発揮できる機会にめぐり会えた喜んで当社と商品開発していただきました。それが今の当社商品ウェットワイパーやタケガードに発展しています。

## 支援していただいた方々

大阪でスーパーを25店舗展開されていたサボイという会社がありました。そのオーナーである和所さんという方は孤児院で育った方でとても苦労して起業されました。今日に至ったのはいろいろ人の支援があったからで、それをこれから順繰りにお返しすると仰っていました。私の食の安全性に対する考え方や理念に共鳴いただき、父の事業が再度破綻したときには億単位の資金提供いただき会社を挙げて支援くださいました。流通業として消費者により近い目線を持つ和所社長と、メーカーという視点でかつ医薬品とい



KUMI KIYOOKA

### ■清岡 久幸プロフィール

- 1963年 高知県香美郡生まれ
- 1981年 高知県立城山高等学校を病気のため中途退学
- 1983年 実業である「鉄の業工務」入社
- 1993年 ㈱リンパードテクニカル(タケックス) 取締役就任
- 1998年 ㈱タケックステクノを分社して独立
- 2002年 当社設立 代表取締役就任



うコンプライアンスの厳しい業界で事業をされている伏見製薬(香川県丸亀市)伏見社長から、役員会では経営アドバイスや叱咤激励をいただきました。今はもう自分の力で行けるよということでお二人は当社役員を退任されましたが、和所さんと伏見さんがいなかったら今の当社はありません。

## 林原生物化学研究所からの出資

林原社長には日経新聞の編集員の方からのご紹介でお会いしました。その方より「どんな図々しいことでも自分がこうしたい!と思うことをぶつけろ」とアドバイスされ、林原社長にいきなり「うちの資本を10倍に評価して出資してください」とお願いしました。かつ「傘下には入りたくない、自分の思うように経営したいし将来はIPOもしたい、だから持株比率は20%までお願いします」「お金も欲しい、信用力も欲しい、林原さんの持っているいろいろなノウハウも欲しい」「でも絶対に夢を達成するし、とにかくやり遂げるので図々しい事はわかっているがチャンスをくれませんか」と。その場で大笑いされました。すごい根性もっているねと。即決でした。しかも名前が欲しかったので個人ではなく会社名義で出資していただきました。

## 「トレハロース」のビジネス戦略

特許戦略や事業戦略で大きく視野を広げて攻めたい時に林原社長のアドバイスを請いました。林原のトレハロースは医薬品バージョンと雑貨バージョンでは価格が数倍も違います。モウソウチク抽出物もエキスとしてチンタラ売っていても成長は難しい。それぞれのグレードのエキスを抽出して、それぞれのグレードでエビデンスを得てから世界市場へ展開しなさいと。さらに抽出方法をブラックボックス化して知的所有権を確立すること、シンポジウムを作り世界の研究者がどんどん売れるような形を発表しにくる場を設けること、林原社長のスケールの大きな発想にとっても刺激を受けました。

## どん底で決意した株式上場

平成10年、会社の存続が厳しい時に父の夢を何としても完成させたいと思いました。高いところを見据えないと心のバランスが取れませんでした。原点を辿っていくと中卒という自分のコンプレックスだと思います。あとは死にかけた経験。目の前で亡くなっていく方を病院のベットからたくさん見て、生きた証、人生の一瞬一瞬をフルパワーで悔いのない生き方をしたいという気持ち...最後に東証の鐘を鳴らして世界へ展開でき

る企業になりたい。そしてこれまで自分を支援してくれた方に有形無形の恩返しをしたい。清岡久幸という人間を、一貫して信じてくださってきた方々に、その目が節穴ではなかったと言ってもらいたい。もう、それだけです。

## 国盗物語の斉藤道山に恋したこともありましたが...

最近印象に残った本はドラッカーの「実践する経営者」です。「成長戦略は、機会のあるところに的を絞らなければならない。機会とは外に横たわっているものではなく、経営者が創り出すものである」というフレーズではっとするものがありました。

Interviewed by  
The Independents 2009.12.2

## 株式会社タケックス・ラボ

- 設立 平成14年2月
- 本社 大阪府吹田市江坂町1-13-48  
インタープラネット江坂ビル3F
- 代表取締役 清岡久幸
- 資本金 1億7715万4000円
- 株主 清岡久幸、三菱UFJキャピタル、  
林原生物化学研究所、伏見 豊、  
ジャフコ、リソナキャピタル、  
四銀キャピタルリサーチ、安田  
企業投資、商工中金ファンド 他